梅鶯仏教壮年会報

第123号
2015年
1月17日

1月例会

期日：1月25日（日）
夕刻5時～6時半

プログラム
お勤め
法話
『浄土真宗のみ教え②』
《凡　夫》
放談会（自由に話しましょう）
仏教讃歌斉唱

☆☆☆

題材法話

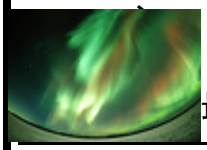
本年もこうして除夜会を迎えられましたこと、有り難いことと存じます。

年を取るほどに一年が早く感じられる、ということが実感されますが、それでも改めて一年を振り返ってみますと、お互いにいろんな事があったと思います。

私事ではありますが、母が3月に往生致しました。また、私の勤務先では親しくさせて頂いてきた副学長が、5月に病気が分かり1ヶ月には亡くなるという、大変に寂しいこともありました。

もちろん良いこともありましたが、やはり諸行無常を感じざるを得ないことの方が多かったように思えます。

あの高倉健さんの最後の手記が文芸春秋に記載されていました。「諸行無常」という言葉から始まり、最後は「往く道は精進して、忍びて終わり、悔いなし」「合掌」という言葉で締めくくられていました。



この最後の言葉は真宗門徒がお勤めする「讃仏偈」というお経の最後にも「仮令身止　諸苦毒中　我行精進　忍終不悔」と、出てきます。

意訳では、「道を求めてたとい身は、苦難の毒に沈むとも、ねがい果さんその日まで、しのびはげみて悔いざらん」と示して頂いていますが、仏教の基本がこにあるのです。

あらゆることが、「道を求める」「悟りを得させて頂く」ということにあり、私たちには、やはり最後は「お念仏」に尽きるということです。

○仏教は古い？

ところでその仏教という、よく「三千年も昔に、お釈迦さんによって説かれた教えや、八百年もの前に親鸞聖人によって示された教えが、科学の時代と呼ばれる今の世に通用するのか？」といったことを仰る方が時々おられます。

確かに現在は、八百年前、いわんや三千年前のインドの世の中とは大きく変わっています。

ですからこれが「金儲けの仕方」とか、「社会のあり方」等とかいった問題なら、確かに「昔のやり方が現在に通用するのか」という意見はもっともかも知れません。

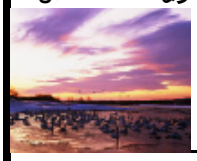
ところが、「生老病死」「生ある者は、やがて老い、病み、死にゆく」という、この人間の根本の問題は、何ら変わっていないのです。

仏教、浄土真宗が説くのは、この根本の問題の解決についてですから、時代が変わろうとも、国が変わろうとも、その教えが変わろうはずがないのです。

むしろ、三千年、八百年もの永きに渡って、連綿とその教えが相続されてきたところに、仏教、お念仏のすごさがあるのではないでしょうか。

ここに「確かさ、疑いのなさ、真実性」があるのです。

○風姿花伝



ずいぶん昔の話なのですが、北陸のある温泉に泊まった時に、旅館の部屋の掛け軸に、このようなご文が書かれていました。

その風に継ぐといへども
自力より出ずる
振る舞いあれば
語るにもおよび難し
その風を得て
心より心に
伝える花あれば
風姿花伝と名付く

この言葉は、室町時代の世阿弥の風姿花伝という能の理論書の中に出てくる言葉だと後で知りました。

「風」の存在を伝えようとする時、風そのものを伝えようとしても、なかなか伝えることは難しい。理屈ではなかなか伝わらない。

ところが、風によってそよそよと花が揺れている。その揺れている花の姿を見て、「あれが風です」といえば、風というものの存在が伝わるのです。

「風姿花伝」、風の姿を花が伝える。

なにか念仏相続にも通じるものを感じます。以下次号